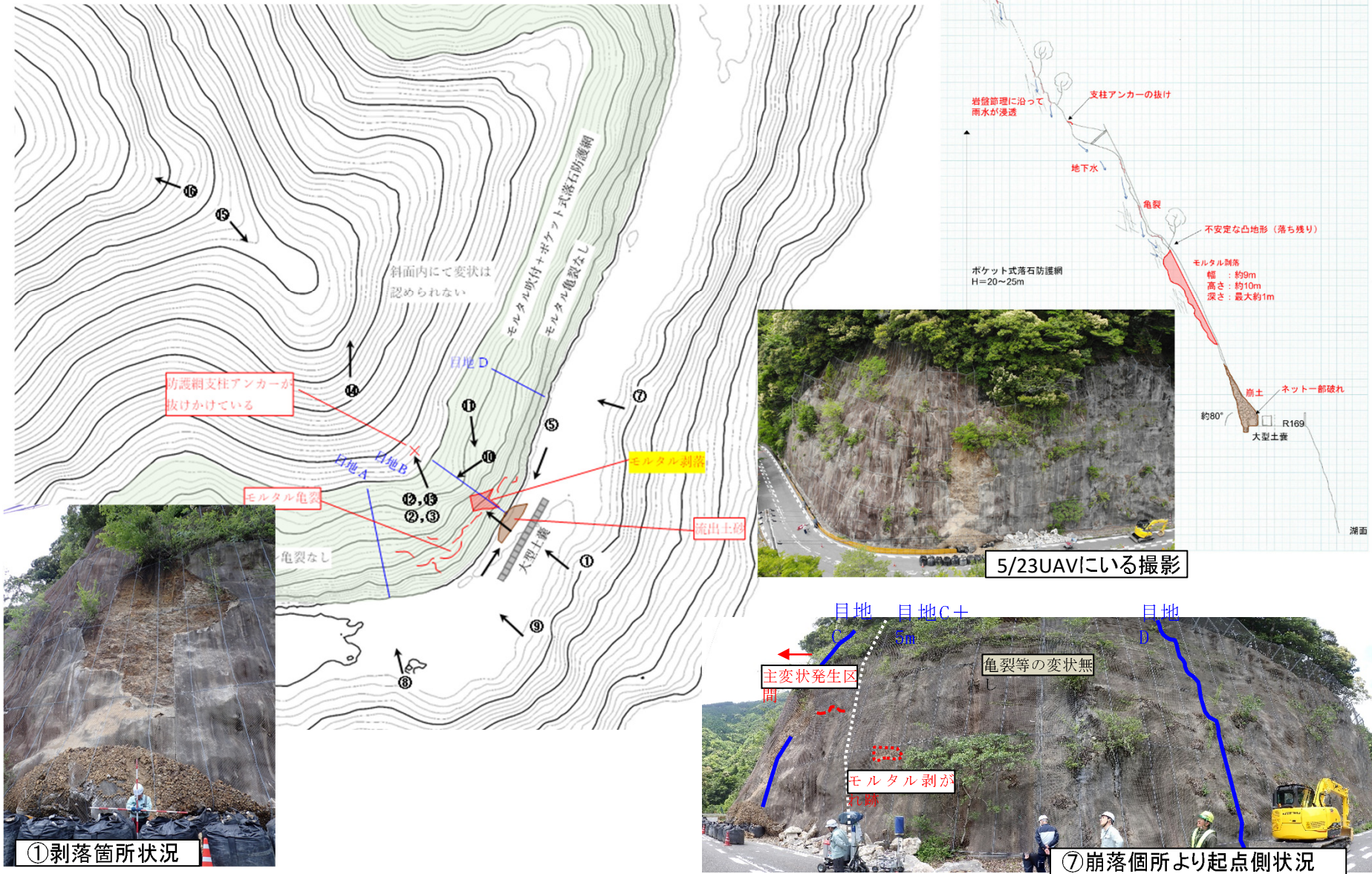


3 過去の経緯(既往緊急点検結果)

3.4 R5年5月8日 崩壊状況

5月8日に発生したモルタル片剥離状況を緊急踏査レポートより抜粋し以下に示す。



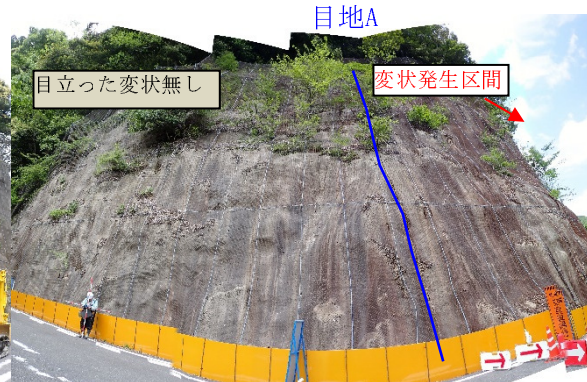
3 過去の経緯(既往緊急点検結果)

3.4 R5年5月8日 モルタル片剥離状況

現地写真等を踏査報告書より以下抜粋する。



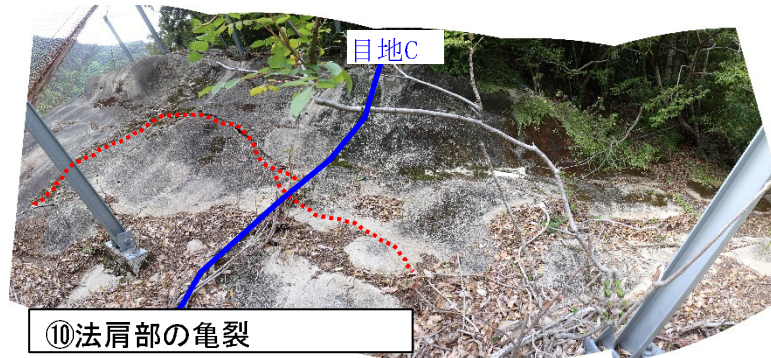
⑦崩落個所より起点側状況



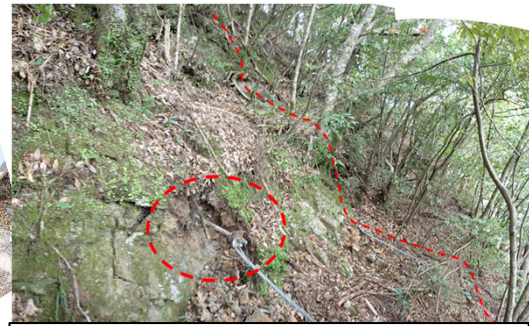
⑧目地Aを境に終点側で変状は認められない



⑨モルタルのクラック状況



⑩法肩部の亀裂



⑫ 斜面状況。段差地形が認められる



⑬泥岩砂岩互層の露頭状況

☆発生機構の推察：風化しやすい泥岩が分布する勾配60度以上の切土法面で切土後長年月により風化が進行しトップリング性の重量変形を受けやすい地盤状況を素因とし降雨による亀裂内の水圧上昇等を引き金として剥離崩落が発生。

☆応急対策案：法尻に大型土嚢を追加するとともにH鋼などによる仮設防護柵の設置を提案。⇒緊急対応で施工実施

☆恒久対策案：亀裂の発達した岩盤およびモルタルを極力除去しモルタル吹付工を実施しさらに破損したポケット式落石防護網の再設置を提案⇒工事発注中